

# 柿 生 文 化

柿生郷土史料館 情報・研究誌

住所：川崎市麻生区上麻生 6-40-1

柿生中学校内

電話：070-1503-6401/044-988-0004

<http://web-asao.jp/hp2/k-kyoudo>

第 189 号

白井義胤翁  
を訪ねて 10

## 白井への関心

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

### 先祖への想い

大正 4 年 (1915 年) 発行の『人事興信録』に富豪として名を遺した義胤翁は、著名人の 1 人として社会的に認知されたのです。この時翁は 71 歳。養子として迎えられた名門白井家の名を再興する礎は築けたと、安堵の想いを抱いたのでしょう。その後も財力を生かした教育関係の寄付は怠らず、柿生村の尋常高等義胤小学校 (以下義胤小学校と略記) に対しても、大正 11 年 (1922 年) に校舎増築費として 5 千円を提供しています。村に対しても、大正 3 年 (1914 年) に学童保護会に対して基本金として 500 円を寄付しています。

一方で、下麻生の白井本家の旧宅についても、手放した周辺の土地を含めて買戻しを進めると、第二夫人なみ女を母に持つ次男の胤さんが結婚して独立する際に、この地に広い敷地を持つ邸宅を建て、別家を立てる胤さんに贈与しています。胤さんと八重子さん (須崎延太郎・マサ夫妻の長女) 夫妻は、長女文子さん、長男元胤さん、次女和子さん、三女玉子さんの 4 人のお子さんに恵まれましたが、長男元胤さんは大正 2 年 (1913 年) に夭折したため、三人姉妹が両親に慈しまれて東京の私立女学校へ入学しています。長女の文子さんは山脇学院、次女の和子さんと三女の玉子さんは青山学院に進みました。私が知己を得た小林一夫氏は次女和子さんの長男です。和子さんは大正 2 年 (1913 年) 生まれですから、12 歳当時小田急線は開通前でした (昭和 2 年—1927 年開通)。ですから下麻生から青山学院中等部に通学することは不可能です。姉の文子さんも次女の和子さんも三女の玉子さんも、皆麻布の祖父の家に預けられて卒業まで通学したのです。胤さんの兄泰胤さんは既に亡くなっていますから、いまだ一家の主は義胤翁です。翁夫妻は孫たちを快く迎え入れ、山脇や青山へも教育資金を寄贈し続けたのです。

ところで、下麻生の白井家の玄関は、義胤小学校の玄関と作りがそっくりです。これは建築を請け負った棟梁が、義胤小学校創立の最大の功労者の屋敷なのだからと、あえて同じ作りの玄関にしたからなのです。写真は籠口の池の正面にあった当時の白井胤家の正面玄関です。義胤小学校の玄関に良く似ていることが分かります。残念ながら下麻生の白井家の建物と敷地は、近年売却され小区画に分割されて、分譲されたため、白井本家の跡を示すものは、完全に失われてしまいました。

話を義胤翁に戻しましょう。義胤翁は大正時代の中頃になると白井家のルーツを辿って、鎌倉殿に仕えた白井六郎常康を祖とする白井の地を頻りに訪れるようになります。やがて翁は白井家の菩提寺円応寺の近くに、白井城跡を見上げる一帯を買い集め、その地を開発して広々とした平地や農地に替え、借り住まい出来る小庵を建てて、ここを拠点に白井家の歴史を勉強するようになったのです。後北条氏に仕えた白井家の一族は、秀吉軍に敗れて散り散りに逃れ、一部は下麻生の地に逃れて武器を置き、百姓として生きる道を選びました。義胤翁は、白井家の菩提寺、円応寺の住職から白井城滅亡後に、一族の 1 人白井秀胤が編纂した『千葉白井家譜』が、本人から寺に納められ大切に保存されてきたことを告げられ、手に取ります。この文書は、令和 2 年 (2020 年) に白井八景・八ヶ寺めぐり実行委員会の皆様の手で読み解かれ、現代語訳が公刊されていますので、誰でも読むことが出来ます。義胤翁は天保年間の生まれですから、江戸文書を読む苦労はありません。ここで翁は、先祖に忠勤を尽くした岩戸胤安とおたつの存在を知り、2 人の助けを得て成人して白井家中興の祖となった白井行胤 (後胤に改名) の業績を知ったのです。先祖の功績を後世に伝えたい、義胤翁はこう考えるようになりました。

続 く



下麻生の白井本家の玄関 (戦時中)

## シリーズ

## 麻生区の地名 その14

## 細山の地名

菊地恒雄(日本地名研究所 研究員)

細山の地名は多摩の横山が尾根状に続いている姿を表現したものではないでしょうか。細山は大きな村で、五反田川の上流部に位置していて、いくつもの谷戸があります。

現在の町名では、細山1~8丁目、細山、向原1~3丁目、多摩美1・2丁目、千代ヶ丘1~9丁目にあたります。

菅馬場(すげばんば)に接する多摩美(たまみ)付近は、字内野(うちの)と呼ばれ、村境の入会地などにつく地名といわれています。地域の東側には多摩自然遊歩道があり、多摩特別緑地保全地区に指定されています。

字大久保(おおくぼ)は小名にも大久保があり、細山1・2・4~7丁目に位置し、名前の通り大きな地域でした。細山2丁目にある細山神明社は村の鎮守で、鳥居から社前まで下り坂になっており逆大門(さかだいもん)として知られています。明治44年に村内各社と金程の杉山社を合祀して、細山・金程両村の総鎮守となりました。

字金井久保(かないくぼ)は細山6・7丁目に位置し、大久保谷戸の最奥部にあります。通称地名の亀久保(かめくぼ)も同地と言われ、カナイがカメと短縮されたとも考えられます。大久保から金井久保を経て矢野口に抜ける道を暗闇坂と呼ばれる細い道でしたが、今は県道稲城読売ランド前停車場線という交通量の多い道となっています。

字北谷(きたのやと)は細山3・4・7・8丁目の一部で小名本村(ほんむら)と呼ばれ、高札場や郷倉があったということから、村の中心であったと思われます。細山公民館(細山会館)が現在もあります。

字中嶋(なかじま)は細山3~5丁目の一部で、細山3丁目に細山中島第2公園があります。

字七代(しちだい)は細山2・3丁目と千代ヶ丘2丁目の一部で、高石に接しています。

字南田(みなみだ)は細山2・3丁目と千代ヶ丘6丁目の一部で、この一帯は小名坂東(ばんどう)にあたり、臨済宗鎌倉建長寺末の香林寺があります。香林寺には本尊の十一面観音があり観音堂で有名でしたが、文政13年(1830)の大火で焼失してしまいます。昭和62年(1987)に総檜造りの五重塔が建立されています。

字中ノ間(なかのま)は細山8丁目と千代ヶ丘8・9丁目の一部で、千代ヶ丘の最も北に位置しています。

字原尾(はらお)は細山の住居表示未実施の地域で、北は稲城市に接し、よみうりゴルフ倶楽部の敷地があります。また、川崎授産学園つつじ工房があり、授産学園福祉の杜緑の保全地域に指定されています。

字向原(むかいはら)は金程の一部を境界変更して向原1~3丁目となりました。小名にも向ひ原(むかいばら)があり、本村からみて山の向うという意識があったところからの地名と思われます。向原から稲城市の長沼・矢野口方面へ向う坂道を小名石名坂(いしなさか)、向原と金程との境をなす坂を長坂(ながさか)と呼んでいます。また、小名小町久保(こまちくぼ)や辻の宮(つじのみや)もこの付近とおもわれます。

字西久保(にしくぼ)は千代ヶ丘7・8丁目の一部で、千代ヶ丘小学校敷地内に丸い山があったところから、通称地名丸山(まるやま)と呼ばれていました。地名由来はわかりませんが、千代ヶ丘小学校と西久保緑地の間を通称地名サガミチと呼んでいます。

字坂東(ばんどう)は千代ヶ丘1~3丁目・5~7丁目の一部で、千代ヶ丘5丁目付近に、小沢原合戦で上杉勢を打ち破った北条勢が馳せ登った坂というところから、通称地名勝坂(かちざか)と呼ばれ、この坂より東を坂東と言ったといわれています。小名坂東はさらに広い地域を指していました。

字山田(やまだ)は千代ヶ丘1・4・5丁目の一部で、村域の西南端に位置し万福寺と金程に接しています。

千代ヶ丘8丁目の配水塔の西側を通称地名七国峠(ななくにとうげ)と呼んでいます。それほど遠くまで見張らせたと言う意味です。あまり、国の名前を気になさらないでください。



シリーズ  
歴史の中の女性像 6

## その1 ナイチンゲールの世界 (6)

小林 基男(柿生郷土史料館専門委員)

## 苦しみの中で

病院で働きたいというフローレンスに対して、家族は揃って反対しました。母のファニーは、娘たちを由緒正しい名門の御曹司に嫁がせることばかり願っていましたが、特に激しく反対しました。彼女にとって上流階級の間人が働くことなど、とても信じがたいことだったのです。姉も同じでした。「家族のメンツがどうなると思うの」と、激しく妹を非難しました。しかし、フローレンスにとって最大の打撃は、いつも優しく彼女の願いを聞き入れてくれていた父からも、強く反対されたことでした。ウィリアム氏は、病院の実情やイギリスの看護師に対する社会の評価を把握しており、愛娘が看護師になった場合、社交界がナイチンゲール家にどのような眼を向けるかも、理解していたからです。ですから、フローレンスをことのほか可愛がっていたウィリアム氏でも、今度ばかりは認めることが出来なかったのです。

フローレンスの願いは、見事に却下されました。彼女にとって、針の筵のような辛い苦しい日々が続きました。彼女がこの時期に、親しい友人に書き送った手紙が残されています。「私はこのまま生き続けたとしても、何の役にも立たないでしょう。私は、何もできないつまらない人間なのです。」後年の活動的で精力的なフローレンスには相応しくない弱気な彼女がそこにいます。両親と共に暮らすか、両親の許しと支援を受けて自活するのでない限り、彼女には生活手段がなかったのです。家出同然に家を出て看護師になるには、裕福な支援者を見つけて支援を受けるしかありません。この時期のフローレンスには、まだそんな人物はなかったのです。落ち込んだ彼女は鬱状態に陥り、その症状は次第にひどくなっていったのです。さすがに両親や姉も、やせ細ってゆくフローレンスが心配になりました。ここで、超のつく上流階級のネットワークが生かされます。旅行家で家族ぐるみで親しく付き合っていたブレースブリッジ夫妻が、「しばらくローマへ旅行するので、フローレンスさんをお連れしたい。南国の空気を吸えば気晴らしができて元気になるのでは…」と申し出てくれたのです。両親も渡りに船とばかりに、フローレンスを送りだしたのです。1847年10月のことでした。ローマでフローレンスは、後に彼女をクリミア戦争へと導くことになるシドニー・ハーバード夫妻と出会い、特に夫人と親しくなりました。

異国の地で元気を取り戻したフローレンスですが、イギリスに戻ると再び元気を失います。社交界の会話やダンスは、もはやフローレンスを楽しませるものではなく、こんなことをしているより、私は病気で困っている人たちを助けたいのにと、再び鬱の状態に逆戻りしてしまっただけです。鬱病の再発したフローレンスは、ローマの旅に誘ってくれたご夫妻の好意で、1849年にエジプトとギリシアの旅に同行しました。彼女の看護に対する熱意に打たれた夫妻は、帰路ドイツに立ち寄り、フローレンスがカイゼルベルスト慈善院に立ち寄る時間を作ってくれたのです。ドイツの友人を訪ねる予定を加えて、2週間デュッセルドルフに寄り道することにしたのです。この2週間フローレンスは自由に行動することが出来るのです。彼女は大喜びで、郊外に位置するカイゼルベルスト慈善院を訪ねました。慈善院は、1836年にルター派の司祭テオドア・フリートナー師が自費で創設した施設で、同所で奉仕活動をする修道女のために看護の基本を教える看護教育と訓練のための施設も備えていたのです。病院のあり方を改善するには、まず看護の基本をマスターした看護師を養成する必要があると、フリートナー師は考えたのです。こうした考えは、カトリックの国フランスで生まれ、地理的に近い南ドイツに伝播したのです。

看護先進地のフランスや南ドイツに比べ、イギリスは大きく遅れた看護後進地でした。遠いイギリスからやってきたフローレンスに対し、院長のフリートナー師は2週間という短い期間でしたが、院内に泊まり込んで訓練を受けることを認めてくれたのです。一緒に訓練を受けるのは修道女たちですから、全員が中産階級以上のきちんとした家庭の娘達です。看護師は社会の最底辺に蠢く卑しい女たちの仕事としか考えていないイギリスとは、大きく違っていたのです。ドイツ語にも堪能なフローレンスは修道女たちに教わりながら、夢中になって働きかつ学んだのです。しかし2週間という時間は、あまりにも短いものでした。「いつかここに戻って勉強しなおさなければ」、こう考えながらフローレンスは家族の下に戻ったのです。そこにはさらなる試練が待っていました。 続く



1847年に描かれたシドニー・ハーバード男爵の肖像画（この年ローマでフローレンスと出会う）

柿生郷土史料館  
第4回史跡見学  
バスの旅予告

# 佐倉・白井の旅 4月17日～24日の平日を予定

予定見学先 歴史民俗博物館  
佐倉武家屋敷街  
白井城跡  
円応寺 その他白井義胤関連史跡

次号で詳細をお知らせしますが、「物流2024年問題」が観光バス業界にも影響しており、運転士の拘束時間を12時間以内に抑える必要があります(12時間は車庫を出てから車庫に戻るまで)、我々乗客の利用できる時間は、10時間を超えないようにする必要があります。そのため、佐倉の見学先を歴史民俗博物館か武家屋敷群かどちらかに絞るかもしれません。

参加日時、参加費等、詳細は次号でお知らせしますので、お待ちください。

### [歴史民俗博物館]

国内最大の歴史民俗博物館。常設展示室が6室あり。第1室 原始・古代、第2室 中世、第3室 近世、第4室 民俗、第5室 近世(現在改装中で閉室中)、第6室 現代。他に企画展示室がある。

### [武家屋敷街など]

武家屋敷。3件の武家屋敷が現存している。その中で室内を見学できる但馬家住宅を見学。

但馬家住宅・佐倉順天堂記念館・旧堀田家住宅と合わせて3ヶ所を見学。

### [白井城址と円応寺]

柿生の教育史における大恩人白井義胤氏が大切にしていた白井家の先祖が居住した白井城址と義胤氏が再整備した白井家の菩提寺円応寺並びに白井家の墓所などを見学。



円応寺



旧但馬家住宅



旧堀田邸



白井家累代の墓(義胤氏建立)

## 柿生郷土史料館催物案内 【参加自由、入場無料】

◎開館日 : 2月3・17・24日(土曜日) 3月3・10・17・24日(日曜日)

◎開館時間: 午前10時～午後3時

### ボランティアの募集

柿生郷土史料館では、以下のボランティアを募集しています

1. 図書の整理に関心のある方  
司書の資格はなくても、図書整理に関心がある方。(現在2名で頑張っていますが、人員を補充したいと考えています。)
2. 展示物の整理・保管  
学芸員の資格をお持ちの方が望ましいのですが、博物館学の講座を、途中まで受講したことのある方でも結構です。

### 柿生郷土史料館 会員募集

柿生郷土史料館の運営は、会員の皆様からの会費収入で賄われています。

会費は	一般会員	年会費	2,000円
	賛助会員	年会費	3,000円
	法人会員	年会費	10,000円

です。会員特典として毎月、機関誌『柿生文化』を送付します。図書の貸し出しを優先的に受けられます。